

「巣鴨くじら祭り2017」

第2回 くじら川柳 受賞作と選考理由

選者：三遊亭金八師匠、NPO海のくに・日本、日本捕鯨協会、日本鯨類研究所

◎子ども部門(全9作品)

1. 大賞(1作品)

No.81	給食で ナンバーワンは クジラだよ	渡邊洋美さん	豊島区立高南小・6年
-------	-------------------	--------	------------

選評：この頃は給食も地産地消などとして、地域の歴史的な食材等が出されます。おそらくかなりの子がくじらを食べるのが初めてだったのではないのでしょうか？子ども達にとってくじらはインパクトのある動物です。「とっても美味しかった」というなら「給食で出す」ということは理想的なくじらデビューではないのでしょうか。

2. 準大賞(3作品)

No.153	くじらはね 人といっしょに 生きている	<small>ひろふみ</small> 松下嘉文さん	台東区立蔵前小・3年
--------	---------------------	-------------------------------	------------

選評：戦後社会はひたすらに「個人の権利・快樂」を追求してきました。ただ、人間は一人では生きられないのです。でもくじらは己の運命を受け入れて波間を漂うだけです。なのでむしろこの句は「人間だけければいいというものではない」と解釈したいです。

「我慢」という概念が私語になりつつある昨今、ちょっと哲学的な部分のある句です。

No.263	ぷよぷよ くじらのお肉 とろけるな	田所遼馬さん	豊島区仰高小・5年
--------	-------------------	--------	-----------

選評：「ぷよぷよ」という語感が実に新鮮です。あまりお肉に使う表現ではないだけにかえってその質感がよく伝わって来ました。たぶん刺身だな。とろけたくじらの脂の食感もよくわかりました。

No.273	くじらさん おいしい給食 ありがとう	板谷沙柚実さん	豊島区立西巣鴨小・6年
--------	--------------------	---------	-------------

選評：食物連鎖の頂点に立つ人間としては、口に入る生けとし生きるものすべてに対してこういった姿勢が大事ですが。「くじらさん」と、より親近感のある表現になるのはなぜでしょうか？やはりくじらは人間に近い生物なんでしょうね。生物だけでなくそれに携わっているすべての事柄に感謝していただけたらステキです。

3. 佳作(5作品)

No.266	たつたあげ くじらときいて おどろいた	<small>かいと</small> 青柳凱大さん	豊島区立西巣鴨小・5年
--------	---------------------	------------------------------	-------------

選評：唐揚げでなく竜田揚げがくじらです。その違いはさておき何の肉だと思ったのでしょうか？

ケンタッキーにはくじらはありません。現代の食材は実に多種多様です。その調理法や食材のなりたち歴史的経緯・・・というところちょっと大げさですがそういったさりげないことを大人が話してあげるのが「食育」です。それには大人も勉強しましょう。

No.24	くいしんぼう 何を食べたの くじらさん	堀口裕太くん	豊島区立巣鴨小・5年
-------	---------------------	--------	------------

選評：正直なところ、人間よりもくじらの方がよほど単純単調な食生活でしょう。ただそこには、合う合わない・・・やはりくじらにとっては小魚が一番合う食材であり、くいしんぼうのように見えても身体を養うだけの適切な量なのかと。その壮観さが人間から見ると魅力的なんでしょう。

No.299	広い海 クジラは日本の 宝物	篠原友希恵さん	豊島区立西巣鴨小・6年
--------	----------------	---------	-------------

選評：くじら関係者が好みそうな句です。物事に「政治」というバイアスがかかると本質が歪められるということが多々あります。くじらこそ、人間の政治的思惑に翻弄されているのではないのでしょうか？くじらとは太古の昔から関わりを持ってきたニッポン。その文化を絶やさないことが大事です。本当に日本の宝物です。

No.399	しおをふく くじらの気合い にじになる	^{そうた} 中山颯大さん	豊島区立巣鴨小・3年
--------	---------------------	-----------------------	------------

選評：潮を吹くというのはくじらの典型的なイメージですが、「気合い」が「にじになる」というところにくじら自身の能動的意思を感じました。虹を作ろう！と思ってくじらが潮を吹いているとしたら、とても夢のあることですね。

No.61	海の中 くじらがいっぱい かくれてる	川柳名:リッキーマウス (林美智子さん)	豊島区立高南小・6年
-------	--------------------	-------------------------	------------

選評：これも解釈いかんでは政治的なラインにリンクされそうです。こういったきらいのある句は多々見受けられましたが、関係者が「その通り！だから・・・」というふうにならざるを得ないのがくじらを取り巻く現状ではないのでしょうか。

◎大人部門(全10作品)

1. 大賞(1作品)

No.74	なつかしき くじらベーコン 父の顔	山賀麗子さん	郵送
-------	-------------------	--------	----

選評：「三丁目の夕日」の世界でしょうか。セピア色の昭和20年代から30年代が目に見えそうです。裸電球の下でちゃぶ台を囲んで楽しい家族の夕食、くじらベーコンで晩酌するお父さん。灰皿のそばには「いこい」。並四球のラジオ・・・。こんなことを並べていたら、団塊世代ならこの句を着に耐ハイ三杯位はいけるでしょう。昭和は遠くなりけりを実感しました

2. 準大賞(3作品)

No.16	巣鴨きて くじらと合える 神無月	北川みわ子さん	FAX
-------	------------------	---------	-----

選評：やりました！事務局はヨイショに弱いのです(笑)川柳というよりは「くじら祭り標語・スローガン」ですね。でも良いんです！関係者が訴えたいことはこういうことらしいです。だから選ばれました！「・・・うーん、よくわかっている！」というわけでアタシはこの句を選んだ選者を本当に讃えたい！

No.27	くじら汁 食べて今夜は でかい夢	高木義弘さん	メール
-------	------------------	--------	-----

選評：うちの4歳の長男もなじみがないはずなのに「大きい魚＝くじら」という発想があります。勝負に勝つ＝カツ丼、よろ昆布など「縁起」を担ぐという意味でかい＝くじら汁というのもかつての食文化にかならずあったでしょう。「でかい夢」という子供のような発想も楽しいです。どんな夢か想像が膨らみます。

No.39	皮も身も まるごと食材 未来食	佐藤香代さん	郵送
-------	-----------------	--------	----

選評：小学校のころ理科室？に「くじらにはムダがない」として大きなくじらの面にこの部位はナニナニ、この部位はナニナニに使われるという教材がかかってましたがそのことを思い出しました。「未来食」という言葉が新鮮に感じました

3. 佳作(6作品)

No.11	大海で 命やりとり くじら漁	河部節代さん	郵送
-------	----------------	--------	----

選評：「命やりとり」という言葉にドキン！としました。穏やかならぬ言葉ですがかつてはそのくらいの覚悟で捕鯨船員は格闘していたということです。南氷洋なんて本当に地の果ての果てのイメージでしたから。

No.95	鯨飲に 妻が発動 モラトリアム(一時停止)	榎 隆人さん	メール
-------	-----------------------	--------	-----

選評：一番の老舗・サラリーマン川柳にありそうな句です。モラトリアムは酒の方かそれとも小遣いの方か。こういう自虐ネタは共感を呼びやすいのです。哺乳類は人間もクジラも、妻には弱いんでしょうか？

No.63	フジツボの 鎧をまとい 荒波へ	伊藤 操さん	メール
-------	-----------------	--------	-----

選評：日露戦争の日本海海戦で遙々ヨーロッパから回航してきたバルチック艦隊が長い航海で船底にフジツボが付着し速度が遅くなったのも敗因の一つと聞いたことがあります。いわば船には厄介者のフジツボですが「鎧」に見立てたところが面白いです。

No.82	くじら肉 からだによいと 呑みすぎた	黒川淳一さん	メール
-------	--------------------	--------	-----

選評：薬も過ぎれば毒となるといいますが、これは鯨にかこつけて・・・というわけで。二日酔いは自己責任です。また「くじら肉」という言葉のある年齢以上は普通に受け入れるでしょうが、若者は使うでしょうか？そう、くじらはかって「肉」だったのです。当時の日本の様子が垣間見られます

No.44	感謝して くじら捕る国 ここにあり	川柳名:くじら日本 (大和田昌江さん)	メール
-------	-------------------	------------------------	-----

選評：選者の好みを狙って来たな・・・というわけで。これも標語・スローガンに近く、ちょっと自画自賛過ぎるくらいはありますが。ただ経済成長を目指していた時代と違い日本が世界に担う役割はますます大きいです。そうありがたい、そうあらなければならないと背筋を正したくなるような一句

No.45	くじら食べ あなたに会いたくなりました	佐々木かろささん	メール
-------	---------------------	----------	-----

選評：数少ない「色気」が漂う句。今、くじら食べる機会は本当に少なくなりました。その「くじら」を食べて会いたくなる相手とは、恋人？両親？ それともこの風景自体が過去のこと？。余韻が残る、俳句に近い句です。

特別参加作品:後援団体トップの皆さまからお寄せいただきました。

「いつの日か 再開するぞ 商業捕鯨」(水産庁長官 長谷成人様)

「こどもたち 夢は大きく くじら級」(豊島区長 高野之夫様)

「教科書の しみ懐かしや 大和煮缶」(豊島区教育長 三田一則様)

「染井櫻」肴はくじらで みな笑顔」(同)

「くじらカツ 昔は給食 今料亭」(同)

「少年の 夢くじらぐも 空高く」(同)

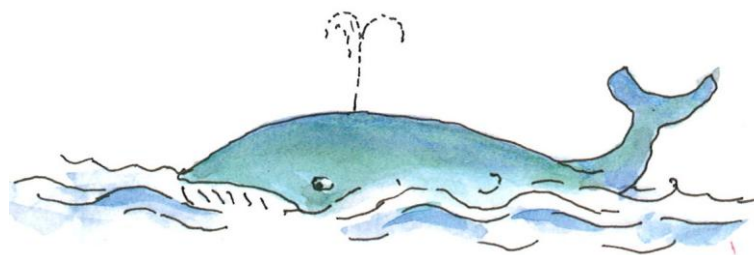
第2回くじら川柳 副賞

大 賞:くじら刺身用赤肉(250g)、くじら刺身用本皮(100g)

鯨大和煮缶詰、くじらのバスク風トマト煮込み缶詰、くじらジャーキー、パレニンちゃんぬいぐるみ、世界の鯨類ポスター、世界の鯨類下敷き、和歌山県太地町の扇子とクジラネクタイピン

準大賞:鯨大和煮缶詰、くじらのバスク風トマト煮込み缶詰、くじらジャーキー、パレニンちゃんぬいぐるみ、世界の鯨類ポスター、世界の鯨類下敷き、和歌山県太地町の扇子とクジラネクタイピン

佳 作:鯨大和煮缶詰、くじらのバスク風トマト煮込み缶詰、パレニンちゃんぬいぐるみ、世界の鯨類ポスター、世界の鯨類下敷き、和歌山県太地町の扇子とクジラネクタイピン



にっぽん

NPO海のくに・日本事務局

〒104-0061 東京都中央区銀座 3-12-15 銀座細谷ビル

TEL. 03-3546-1291 FAX. 03-3546-1164

E-mail gyo@WFF.gr.jp <http://www.WFF.gr.jp>